

平成26年度 学校評価自己評価表(中間・最終)

経営理念	【ミッション】(学校の使命)	【ビジョン】(将来の学校像)
	津田小学校との統合に向けた準備を着実に、「浅原小学校で学んでよかった、思い出深い1年だった」と思える教育活動を精選・充実・創造し、ふるさと浅原を愛する児童を育てる。	統合前の1年間に、浅原でなければできないこと、浅原だからできること、浅原でもやらなければならないことを考えた教育活動を推進する。浅原の四季を実感し、豊かに生活することができる児童を育成する。また、知・徳・体のバランスのとれた、「夢と笑顔と志」をもつ児童の育成を図る。

	評価計画				自己評価				学校関係者評価		改善計画	
	中期経営目標	短期経営目標 (◎=重点項目)	目標達成のための方策	成果指標	担当	達成値		達成度	評価	コメント	改善策	
						中間	最終					
確かな学力	基礎・基本を重視した学力の定着と向上	◎思考力・判断力・表現力育成のための授業改善を図る	言語活動の充実を図り、表現力を付ける	話型のポイントを生かして聞く・話す活動が十分でき、自信をもって説明・質問・応答ができる。	教務	発表内容に合わせ、発表方法を工夫し、友達への考えに質問や応答ができる児童の割合を85%以上にする(児童アンケート)。	88%	94%	A	A	・浅原小最後の学習場面で、教職員が協力して取り組まれました。大変学力の成果が見られました。子ども達も津田小に統合の中で学習活動で負けないで頑張る心構えができています。先生方、大変ご苦労様でした。 ・少人数ながら授業に工夫がされている。 ・学習内容はよく分かりませんが、発表態度、声の大きさ等よいと感じました。 ・達成値が上がっているので先生達の日頃の取組の成果だと思います。ご指導ありがとうございます。 ・達成されていると考える。学力向上に向けて時間をかけて取り組んでいただいたこと、また成果が得られたことに満足している。	児童アンケートの発表したり質問したりする項目で88%から94%に上がっている。朝会の話に感想や意見を聞くなどその場その時の自分の考えを発表する機会を増やし、改善された授業モデルを意識した授業を実践していくことで、児童自身も自覚して発表を行うようになってきたと考えられる。今後も、相手の話や友だちの意見を受けて発言することを指導者児童共に意識して取り組んでいく。
			既習事項を生かし、思考力を付ける	既習事項や算数的用語を使い、算数的活動を主体的に行い、ノートや発表ボードにかいて問題解決できる。	全国・広島県・廿日市市学力調査で「通過率60%以上の児童の割合」が90%の正答率を取る。	100%	100%	A	A	廿日市市学力調査の結果が2月下旬に表れる。目標値が達成できることを目指して、既習事項を生かして学習が進められるよう掲示物を作製したり導入時に確認したりするなど日々の授業に取り組んでいる。児童に付けたい力と思考の根拠を明確にして問題解決が進められるよう、今後も授業改善を意識して実践していく。		
		特別支援教育を基盤とした授業づくりを図る	学習に集中し、だれもが分かる授業を創る。	・休憩前に次時の学習の準備を済ませる。 ・学習の見通しをもたせる。	特支コ	1児童の自己評価「できた」が85%以上(ステップアップ週間のカードに項目を入れるにする)。 2職員の自己評価B以上80%以上にする。	1…93% 2…100%	1…93% 2…100%	A	A	授業終わりの号令の時に「次は〇〇です。」の声かけで、学習の準備が徹底してきた。特別支援学級では、本時の学習内容を小黒板に書き、学習を進めている。今後も継続していきたい。	
豊かな心	学校環境整備を通じた豊かな心づくり	人との関わりを重視した教育活動の充実	地域に根ざした教育活動の開拓・充実(道徳・総合・生活・理科・社会等)	様々な教育活動の中にゲストティーチャーの活用できる内容を検討して効果的な招聘を行う。	道徳	道徳・総合・生活・理科・社会等の各教科領域で各学級年間2回ティーチャーを招聘する。	80%	95%	B	B	・交友会等との交流はすばらしいと思います。 ・どの子どももよく本を読んでいるなど感じました。 ・子ども達がよく本を借りてきて読んでいる姿を見ます。本から学ぶことは多いと思うのでよいことです。 ・達成されていると考える。読書については学校から図書を複数冊持ち帰る児童の姿が日常的に見受けられた。	2学期も計画的にゲストティーチャーを招聘し、ねらい達成に向けて学習を進めたことで、地域により関心をもてるようになった。地域を知ることで自分の自信や自慢にもつながった。今後も地域に出向きながら、人との関わりを通して地域に愛着を持ち大切にしていこうとする気持ちを持たせたい。
		読書習慣の定着・向上と豊かな読書の充実	冊数と読んだ本のジャンルを増やす。	年間50冊以上の読書をするともに、読むジャンルを広げる。家庭での読書習慣を身に付ける。	国語	1課題図書を含む年間50冊以上の読書をする児童を90%以上にする。 2読んだジャンルを5項目以上読む児童が80%以上にする。 3さいきっ子カードの読書時間を昨年より平均10分以上回る。	1…94% 2…100% 3…5分	1…100% 2…100% 3…10分	A	A	全児童が、意欲的に年間50冊以上の読書をした。児童が読書推進員の先生と連携して、カードに自分のためあてを書きシールをはったリスタンプを押したりしていく事で、読書の冊数が増えいるいなジャンルの本を読むようになった。家庭での読書時間は、昨年度より平均して10分以上回った。どの学年も昨年度より上回っているため、今後も継続して取り組んでいきたい。	
健やかな体	たくましくしなやかな心と体づくり	健康・体力づくりの推進	新体力テストの課題項目の向上・改善する。	握力・立ち幅跳び、シャトルラン、ボール投げの能力を高める。グッドモーニングラン、体育の授業などで具体的なスキルを取り入れる。	体育	新体力テストの課題項目の数値を4月当初より向上するとともに県平均を上回る項目を1つ以上にする。		7項目	A	A	・それぞれ学年にあった体力が維持されているように思われる。 ・挨拶等とても素直で礼儀正しくなってきたと思います。 ・少ない人数の中でもバレーやテニス等いろいろなスポーツをやらせていただいていると思います。	課題項目の握力について、男子の多くが県平均以下だったが62.5%の児童が県平均を上回ることができた。全児童に握力グリップを持たせ、日々、握カトレーニングカードに記録させた。個人差はあるが、ほとんどの児童に向上が見られた。個々に対応した具体的な取り組みを指導すると同時に、握る活動を学校生活の中に仕組んでいき、評価しながら意欲的に継続させていく。昨年度の課題の立ち幅跳び、シャトルランは昨年度の取組により県平均を上回ったので継続して取組を続ける。体育委員会の活動としても仕組み、児童自らの体力向上に向けた運動に取り組ませていく。
		食に関する指導の充実	食に関する授業等を通して食生活の改善を図る。	食に関するアンケートの自己評価や聞き取りで児童の満足度を80%にする。	保健主事	満足度80%以上の児童が85%以上にする。	87%	87%	A	A	・達成されていると考える。この1年をみても児童の体力の向上は実感できるものであった。握力など積極的に向上させる努力を学校側にしていただいたことに満足している。	高学年を中心に広島給食の調理実習をした。栄養士の先生と連携して学活の授業として食育学習を進めた。3学期は、バイキング給食を実施し、児童だけでなく保護者や地域の人にも食育を進めていきたい。また、給食レシピ集を発行し、開校式の日に配布していきたい。
信頼される学校	地域の特色を生かした取組の推進	伝統文化教育の充実	茶道学習・果実栽培・吹奏楽の充実・発展	探求的な学習になるよう取り組む。	教務	茶道・栽培・吹奏楽の振り返りカードを各自が学期末に工夫を凝らして作成する。	100%	100%	A	A	・前向きに一生懸命にやっている姿を見ることができ、頑張っている。 ・浅原小では、少人数の学級で相対して指導してもらい、充実した指導を受けていた。津田小に行くと学級での人数も増え子ども達の心情が心配である。 ・梨、宗箇祭、敬老会、芋掘り等よく連携がとれている。 ・通常の授業以外にも茶道や吹奏楽、梨の栽培等たくさん活動させていただいていると思います。家ではできない経験です。 ・達成されていると考える。様々なイベントで吹奏楽を披露するなど、他にも児童に特別な体験を提供する学校側の姿勢を特に評価したい。	児童一人一人が学習課題をもって追求学習をすすめ、リーフレット作りに向けてまとめている。個々の工夫が生かされるよう今後も指導していく。
		◎学校統合に向けた着実な教育活動の推進	学校交流だよりを定期的に発行する。	・年間計画に基づく学校統合に向けた進捗状況を管理する。 ・学校交流だよりを各学期に2回以上発行する。	教頭	・各学期に実施する保護者・地域・児童のアンケート結果で、85%以上の満足度を得る。	92.5%	96%	A	A	新年度、児童が津田小学校での学校生活に早い段階で適応できるように津田小学校教職員とも連携を図りながら準備を進めていく。また、保護者へも津田小学校での生活のきまり等の周知を図りスムーズな統合への移行を図る。	
小中連携	9年間を見通した小中一貫教育の推進	家庭学習に自ら取り組む児童生徒の育成	家庭学習定着のための基本的な生活習慣づくり(ひろしま学びのサイクルを生かした取組)	さいきっ子カードをもとに家庭学習習慣を身につける。	教務	けんこういきいき家庭学習カードの学習時間が各学年×10分+10分を上回る児童が85%以上とする。	86.7%	80%	B	B	・礼儀は身に付いていて、正しく挨拶等はできている。 ・感謝の会での肩たたきをしながらかけがよかった。これまで話しかけたこともない同じ集落の子ども達とより身近に感じられた。 ・小中一貫教育がさけられる中、大変意義深いと思います。	6月と11月に実施したさいきっ子カードの取組を見ると、高学年では家庭での学習時間が増え、土日も家庭学習に取り組む児童が増えてきている。保護者・児童アンケートからも90%以上の評価であった。取組週間だけのことにならないよう、家庭学習の習慣化に向けて自主学習の進め方、休日の過ごし方や家庭学習のあり方などを知らせる、肯定的な評価で意欲を継続させるなどの取組を行う。
		マナーや規範意識の育成	礼儀日本一を目指す。	さいきっ子ノートに沿って、あいさつ・返事、掃除、服装の徹底をする。 ・児童・保護者アンケートの実施を実施する。	生徒指導	90%の児童が礼儀日本一を意識して生活を行っている。	84%	100%	A	A	・散歩中、近所の人に会うと子ども達の方からしっかり挨拶をしている姿を見て学校で指導して下さっている成果だと思います。 ・達成されていると考える。挨拶についてはいろいろな意見があると思うが、基本的には挨拶をしないなどマナーの悪い児童はいない。	学校や地域でも挨拶をする児童が増えてきているので、今後もどこでも挨拶ができるように指導していきたい。朝会での服装チェックや、生徒指導主事が今週の重点目標を話すことで、児童のマナーがよくなった。今後も礼儀日本一の意識を徹底していきたい。

【評価】 A:100≧(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60